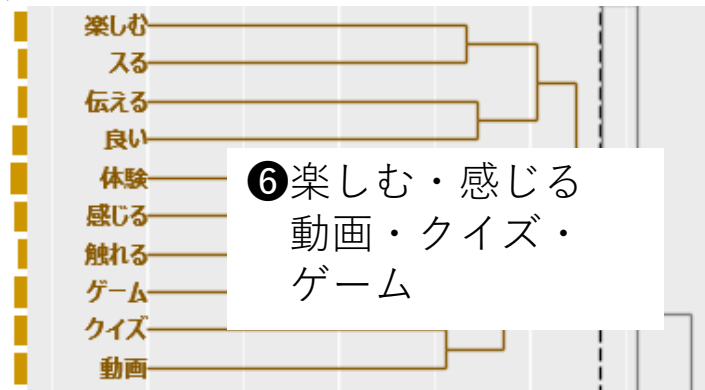
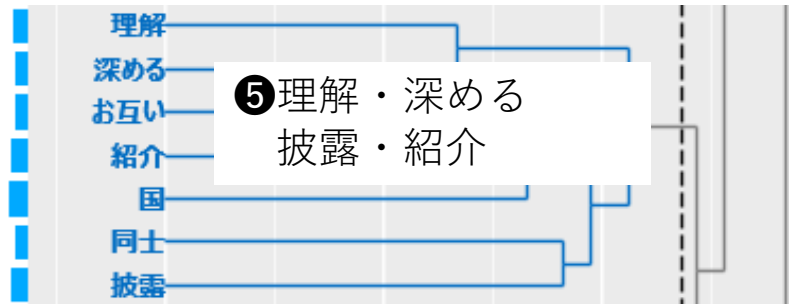
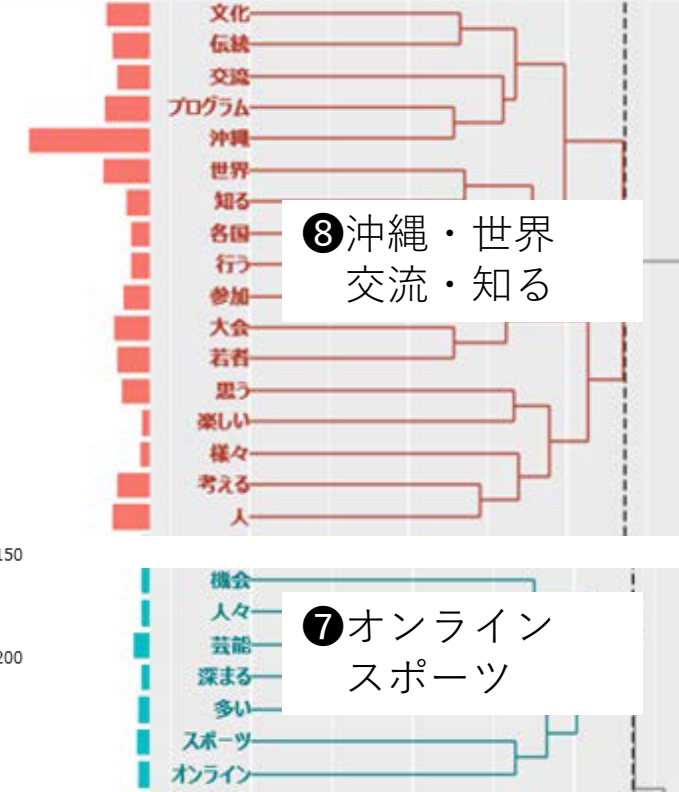
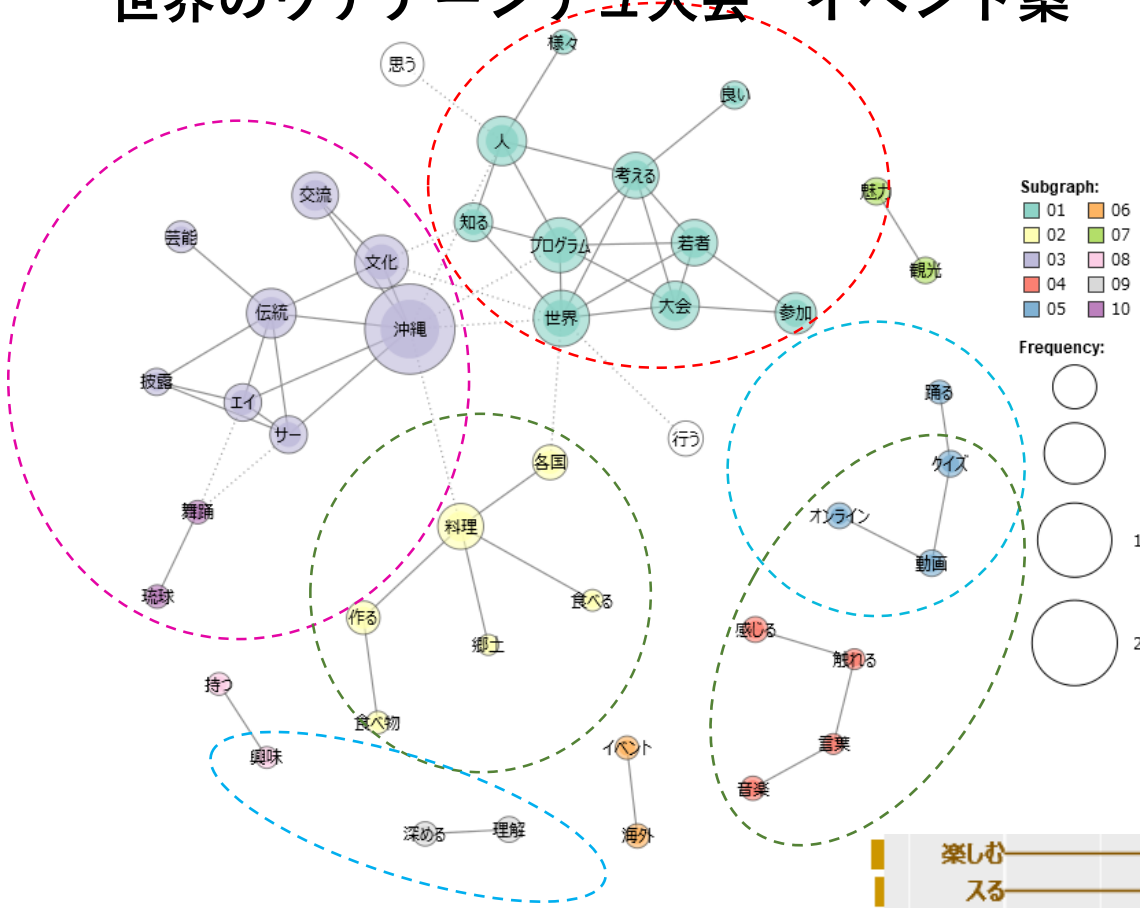
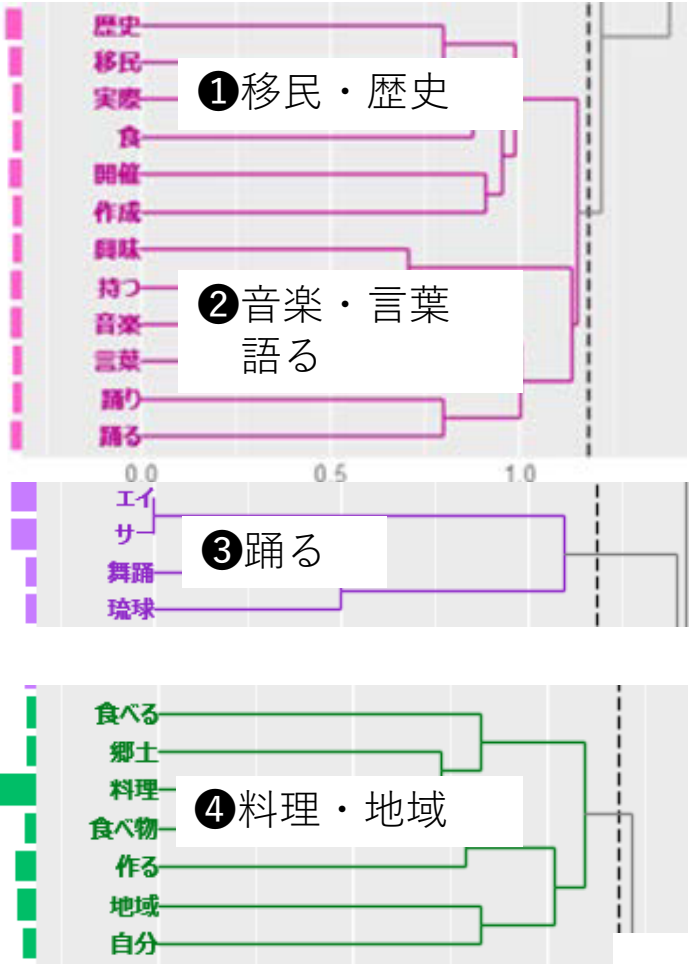


● 私見	1. オリンピック方式 (24時間開催、TV 1チャンネル+地域別YouTube配信) 時空を超えて 2. Ready Made からOrder Made へ (数か月前より、リクエストのマッチング伝言板) Round Square方式 3. 「打ち上げ花火」からの脱皮経験の蓄積・プラットフォーム化 (過去のアーカイブ化、今回のアーカイブ化) 4. 万国津梁会議 課題①~④関連 (参考: 「学生のアイデア集」)
------	--

● 学生のアイデア集 (抜粋)		対面/遠隔	課題①~④
1 通販	インターネット上で沖縄の伝統工芸や文化に関するチャリティーショップを行う。日本国内だけでなく、世界の人々にも沖縄の文化を知ってもらえる機会にもなるし、資金調達にもなると思う。	遠隔	①・③
2 遠隔	リモートで行う沖縄や世界の文化体験や料理教室 (コロナへの配慮、リモートで行うことで誰でも気軽に参加できる、世代間交流がしやすい)	遠隔	①・②
3 遠隔クイズ	オンラインでクイズ大会をする。沖縄やそれぞれの国に関するクイズをお互いに出し合って理解を深める。ダンス動画を1つの動画にする。それぞれでダンスや特技などを音楽に合わせて披露し、それを動画に撮って、撮った動画を編集して、一つの動画にし、最終日にみんなで完成した動画を視聴する。ダンスONEプロジェクト参照	遠隔	①・②
4 ウチナーグチクイズ	ウチナーグチクイズを開催する。	遠隔	①・②
5 オンライン交流	オンライン上のグループディスカッション、手紙の交換。オンラインでのウチナーンチュ大会に関するクイズ大会	遠隔	①・②
6 オンライン交流	「ブレイキング・ウチナーンチュールーム」 ブレイキングアウトルームを活用したプログラム。少人数のルームを作成することで発言しやすく、若者たちの間で交流が深まる。	遠隔	①・②
7 クイズ	ウチナーンチュの世界での暮らし。クイズ (昔の沖縄と今の沖縄の風景を比較したものや人物など沖縄関連のもの。交流会 いくつかのグループに分かれて交流する。) みんなで何か一つの言葉を紙に書いて動画を作る。	対面<遠隔	①・②
8 クイズ	ウチナーンチュの歴史をクイズ形式でまとめたクイズ大会	対面<遠隔	①・②
9 ゲーム	ウチナーンピックのように、協力しながらできるゲームプログラム	対面<遠隔	①・②
10 共同作業 (個)	シーサーの絵付けをするプログラム。何か1つのもを沖縄県内外の人と共同して作ることで絆が深まると思うから。	対面<遠隔	①・②
11 ゆんたく	ディスカッションよりもっと緩いゆんたく会。ビーチパーティー。各国の代表的なスポーツ大会やゲーム大会。各国の文化と沖縄の文化の融合美術館。伝統工芸の体験イベント。	対面	①・②
12 動画コンテスト	ウチナーンチュの住む各国の伝統文化の紹介の動画を作成する。コロナ禍で世界各国との交流をすることができないため、各国のウチナーンチュが「沖縄に対する気持ち・魅力」を何かしらのモノに残し、お互いに評価し合う活動 (「沖縄が大好き」なウチナーンチュが魅力について評価し合うことで、新たな沖縄に対する視点を得ることができるのでは?)	対面<遠隔	①・②
13 音楽フェス	どの国でも共通して楽しむことができるのは、音楽である。音楽には言葉がいらぬ。また、沖縄には琉球音楽という受け継がれてきた伝統ある音楽がある。若者が沖縄について興味を示し、深く学んでいくための入り口となる。誰でも参加できる音楽フェスを行うことで、気軽に足を運ぶことができ、沖縄文化に触れることができる。	対面<遠隔	①・②
14 物々交換	プレゼント交換。zoomのブレイクアウトルームを使用。可能な限り他国の方と繋がるようにする。自分の国や地域の文化を相手が実感できるような物が望ましい。ブレイクアウトルーム時に、お互いその物について説明し合う。翻訳ツールや通訳の方を交えてコミュニケーションをとる。物を発送し、受け取ることでプレゼント交換完了。	対面<遠隔	①・②
15 討論会	ペルーで行われた世界若者ウチナーンチュ大会の5日目で行われた沖縄県主催のウチナーンチュ強化討論会はいいプログラムだと感じました。県が率先して若者に討論させることはとても刺激があると感じます。	対面<遠隔	①・②
16 講話	実際に移民として世界中に渡った人々の講話。実際に経験した人の話を聞くことは興味深く、心に響く!!リアルな話を聞くことに若者は興味がある!! 若者は知らないことが多い!!	対面<遠隔	①・②
17 就労支援	沖縄に関する企業に呼び掛けて、就労支援のプースがあれば、相互にとても役立つのではないかと考える。	対面<遠隔	③
18 SNS発信	沖縄の若者が沖縄の伝統芸能や文化を外国の方に直接教える。その様子をSNSで発信	対面<遠隔	①・②
19 アーティスト	開催地域で活躍するアーティストを招待して、オープニングやエンディングで曲を披露してもらう事。	対面<遠隔	①・②
20 写真投稿	若い人たちはSNSを利用して写真を投稿する人たちが増えているので、沖縄の美しい場所を再現したプースを作って写真スポットにする。沖縄料理を作った楽しめるとし、仲間同士と一緒に作った達成感や懐かしさを味わえるようにする。	対面<遠隔	①・②
21 動画コンテスト	自分の地域の魅力を1分間の動画で制作し、ティックトックやインスタグラム、YouTubeのショートムービーといったSNSを利用して配信して、より反響があったものをグランプリとするというもの。理由 若者にとってはSNSが最も身近である。短い動画なので気軽に見ることができる。	対面<遠隔	①・②
22 連続動画	別々の地域に住んでいるもの同士で皆で何らかの動画を作る。メッセージを言い合いながら、キャッチボールして見えるように動画を繋げる。	対面<遠隔	①・②
23 体験学習	三線をつかった体験学習。エイサー体験	対面<遠隔	①・②
24 学校紹介	各国の学校の様子を紹介するプースの設置。制服や学校の様子など学校は国によって異なるため若い人でも興味を持ちやすいのでは?	対面	①・②
25 留学説明会	近年では留学をしたいという学生が多いため、日本人の学生と沖縄県にゆかりのある海外の学生 (若者) 同士で留学や沖縄の魅力について語る場を設ける。	対面<遠隔	①・②
26 海外のウ大会観賞	実際に外に出て世界若者ウチナーンチュ大会開催国を見るのも良いと思う。	対面<遠隔	①・②
27 企業フェスタ	就職の問い合わせが多い⇒世界のウチナーンチュにとって就活しやすい環境づくり 沖縄に住むウチナーンチュが世界で働く環境づくり	対面<遠隔	③
28 県産品	国際観光地としての「オキナワ」や県産品の魅力を理解する。(例示 産業まつり、市町村観光案内、伝統工芸品の紹介・ワークショップ、工芸の杜の活用)、ResorTechOkinawa	対面<遠隔	③
29 かたやびら	地域愛かたやびら大会。その人の価値観やルーツを知ることで、より深い人間関係を構築することができ長期的な繋がりが形成に繋がると思うから。	対面<遠隔	①・②
30 ゆんたく	沖縄と海外の郷土料理の屋台を出店し、「ゆんたく」できる場を設ける。屋台や「ゆんたく」などのラフなプログラムは足を運びやすい!!様々な人々との出会いと交流を生み出す!!	対面	①・②
31 ゆんたく	自分たちのルーツや地元愛、沖縄愛を語り合うこと	対面<遠隔	①・②
32 沖縄伝統工芸	世界のウチナーンチュが交流を深めることはもちろん大事だと思う。個人的には、琉球の文化 (エイサー、空手、織物) などを、みんなに知ってもらうことで、担い手を増やせたらと思う。 特に、沖縄の伝統工芸についてはあの「エルメス」もインスピレーションを受けるほど注目されている!!	対面<遠隔	①・②
33 伝統工芸体験	シーサーづくりやミンサー織りなどの沖縄の伝統を体験できるプログラム!	対面	①・②
34 喜友名涼 招聘	東京オリンピック空手男子形で金メダルをとった喜友名諒さんの演武。YouTubeでのlive配信	対面<遠隔	①・②
35 ウォークラリー	ウォークラリー。スポーツ大会と同様に体を動かすことで仲を深める。各ポイントごとに面白いクイズや賞品などを用意するとやる気が上がる。スポーツ大会とは違いあまり運動能力の差が出にくいと思う。	対面	①・②
36 動く	体を動かして交流できる楽しいイベント	対面	①・②
37 スポーツ	スポーツなどを行うことにより、自然とコミュニケーションが増えると考え、沖縄の特色を活かした海洋スポーツなどを利用し、交流を深めるプログラムが良いと感じた。	対面	①・②
38 ものづくり	みんなで沖縄文化の作品を作るプログラム。持ち帰ることができる伝統工芸品を作るプログラム。記憶と、帰国してからも思い出として残る「ものづくり」プログラム。	対面	①・②
39 持ち寄り	世界で広まっているウチナーンチュの文化や歴史などについて持ち寄り、日本人や来場した人にも知ってもらい共感を集める	対面<遠隔	①・②
40 モニュメント	全員で一つの大きな沖縄を表す象徴のモニュメントを作る	対面	④
41 壁画	誰でも自由にメッセージや絵が描ける壁の設置壁やボードに自身の思いを自由に書く Ex.沖縄への思い、夢など。目的は現在の自分のアイデンティティの確認。使用した壁やボードを次回の大会でも設置し過去の自分を振り返るために再び大会に足を運びきっかけにする。	対面	④
42 共同作業	様々な国の人と交流する貴重な時間なので、皆で一つの目標に向えるような活動をするプログラムが良いと考えた。例えば、皆で協力して大きな絵や物を完成させるなど。共同作業は仲間意識を強く、達成できた瞬間を共有することが嬉しさが何倍にもさせるだろう。	対面	①・②
43 サービス券	友達と一緒に参加することで沖縄県内の飲食店や商業施設でサービスを受けることのできる券を配布する これにより若い世代の参加率をあげることができると考える。	対面	①・②
44 体験	しまくとぅばやエイサーを学べるプログラム沖縄独自の音楽や言葉は沖縄出身の私自身も学ぶことがとても楽しいので、沖縄県内の人でも県外の人でも、どの年代の人でもエイサーやしまくとぅばを学び体験するというのもとても楽しくできるのではないかと考える。さらに、エイサーやしまくとぅばは親しみやすいものだと思うので、様々な人とのコミュニケーションもとることができると考える。	対面<遠隔	①・②
45 ホームステイ	沖縄の大学生との交流会を作る。ホームステイとして、若者同士友達になって沖縄にいつでも遊びに行きやすい環境づくりの輪を広げる。	対面	①・②
46 多様性	私が考える世界若者ウチナーンチュ大会のおすすめは興味を持った誰もが、緊張せず参加しやすいものを作ることです。例えば、大勢が苦手な人が参加できる少人数のものやLGBTQなどのマイノリティの方や障がい者にとっても息苦しくないコミュニティや活動を推進することです。活動は、みんなが楽しく居心地がよいものならいいと思います。	対面<遠隔	①・②

# 世界のウチナンチュ大会 イベント案



名桜大学 国際学入門受講生(176名) の記述回答を共起ネットワーク (中央) と階層的クラスター分析で表示